

令和3年度 さいたま市立上小小学校 自己評価書

校長 花房 秀史 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 「協働的な学びを通して、児童が自分の変容を実感できる授業」の実現に向け、本時のめあてを明確にするとともに振り返りを位置づけた授業を実施し、確かな学力の定着を図る。グローバル・スタディでは、社会や世界、他者との関わりに着目し、状況等に応じたコミュニケーションを通して児童が情報を整理しながら思考を再構築するための指導に重点化を図った。また、総合的な学習の時間と連携し、横断的・総合的な学習や探求的な学びを充実を図ることができた。
- (2) 他者を思いやるなど、豊かな心の育成に向けた取組や規範意識の向上を図る指導の工夫を展開し、いじめの防止、長期欠席児童に対して適切な支援を講じた。コロナ禍において、児童の情緒的な不安定さが顕在化され、児童が抱える課題もより一層複雑化・深刻化している状況があった。そのため、教職員が常に、児童や保護者の心情に寄り添った対応を心掛け、SSW・SC等の専門援助職との役割分担を明確にすることで校内生徒指導・教育相談体制が強化を図った。また、学校外の関係機関との連携を緊密にとることで、実効力のある迅速な対応が可能になった。
- (3) 生徒指導主任・教育相談主任を中心にした校内委員会の定期開催等、校内指導体制の充実を図るとともに、SC・SSW・さわやか相談員や児童相談所等の外部専門関係機関等と連携しながら、配慮を必要とする児童及び不安を抱える保護者への支援を組織的に行う。
- (4) 児童の安全確保のために、安全点検や校内の見回りによる、施設・設備等の危険個所の早期発見と速やかな修繕の実施と、救急体制の強化を図る。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、飛沫感染を防止するためのパーティションを増やし、さらに全教室に二酸化炭素濃度計を設置した。空気の循環を可視化することで、換気の見安が明確になり児童が安心して授業に臨める環境を整えた。
- (5) 慣例的に行ってきた業務の見直しを行うとともに、各教職員に仕事の優先順位をつけさせるなどメリハリのある働き方の呼びかけを行い、ワーク・ライフ・バランスの充実を図る。

2 評価結果について

- (1) 「授業は分かりやすく、楽しい」について肯定的に回答した児童は90%である。学校課題研究を通じて、「協働的な学びを通して、児童が自分の変容を実感できる授業」の実現に向けた授業改善が進んでいると捉えている。
- (2) いじめや友達の嫌がることをしないと回答した児童は96%であった。これは、「いじめ撲滅！桜木中学校区・上小小アクション」の取組の充実が図られてきた成果と捉えている。また、教職員には、いじめの疑いの段階から早期対応が確実にこなえるよう、管理職への報告・連絡・相談を徹底し、組織的に取り組んだ。
- (3) 「教育相談体制の整備」について、「相談によく乗ってくれる」と肯定的に回答した児童は96%であった。
- (4) 「施設設備の整備」について肯定的に回答した保護者は、87%である。児童に怪我等の事案が発生した際には、迅速に家庭や医療機関との連携を図り、早期対応を徹底した。
- (5) 「働き方改革推進プラン」に基づき、会議の精選、マイプライベートデーの設定等組織マネジメントにより業務改善を進め教職員一人ひとりの意識改革をおこなった。その結果、業務量の削減とともにメリハリのある働き方につながり、4～12月までの時間外在校時間の平均が、昨年度と比べ12%削減することができた。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・ICT環境を最大限活用し、児童の学習の定着を把握し、児童自ら自分に必要な学習を行うことができるよう「個別最適な学び」の実現を図る。
- ・自己存在感を味わえる学級経営、共感的な人間関係の育成、自己決定の場を与える教育活動の推進により、児童一人ひとりの個性を生かし、よさや可能性を伸ばすことのできる教育を実現する。